

文部科学大臣、下村博文先生の大学入試改革、特に、英語教育改革を考える

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
2. 今日は、大学入試改革のお話を少しさせていただきます。自由民主党の教育再生実行本部というところが、世界に通用する人材の育成を目指すための教育改革の第1提言を3月21日にまとめました。各新聞でも大きく報道されましたので、お読みになった方もいらっしゃると思います。これはかなり大胆な提言です。
3. 現文部科学大臣は、学習塾の経営者であった時代に私も非常に仲良くさせていただいた下村博文先生です。下村先生は、幼い頃、小学校3年生の頃にお父さんを交通事故で亡くされて大変厳しい生活をなさいました。そのため、自分のように大変な思いをする子どもたちをなくそうと、中学校高学年のうちから文部大臣を目指して群馬県立高崎高校・早稲田大学と進み、そして東京都板橋区での学習塾の経営者を経て、東京都議会議員、国会の衆議院議員になられた方です。日本の教育をどうにかしなければならぬという深い考えのもと、今回の組閣で文部科学大臣になりました。私は、「安倍内閣が続く限り、自分は文部科学大臣を務めたい」と下村さん御自身からお聞きしましたし、皆さんも知っていらっしゃることです。
4. 下村文部科学大臣は、自分の思いをいろいろな方々に投げかけ、また、自由民主党の方々にも投げかけて様々な改革案を出してもらっています。それらをもとに提案した1つが、大学入試の英語の試験に TOEFL を採用するというものです。具体的には、5年後つまり現在中学1～2年生の皆さんが大学入試を受けるときに、英語の試験の代わりに TOEFL を使うということのようです。これは、現在行われている大学入試の英語の試験と比べると驚くような改革です。
5. TOEFL は、アメリカやヨーロッパの国々へ留学を希望する方々を対象とした世界共通の留学生試験ですので、世界的なレベルで行われます。英語の4つの技能(読む・書く・話す・聞く)から出題され、各分野30点ずつ配点されて合計120点満点です。TOEFL はほぼ1年中実施されていて、コンピュータを用いた web 上の試験になります。ですから、試験を受けるためには、キーボードを見ないで文字を入力する「タッチ・タイピング」の技術が不可欠です。これだけでも驚くべき試験内容と言えます。

6. また、短時間のうちにコンピューターに出てくる大量の英語の文章・英語の情報を読んだり聞いたりして理解しなければなりません。そして、話す試験もあります。ですから、本当に難しい試験です。
7. 日本人は TOEFL が不得意で、特に「話す能力」と「書く能力」はアジア 30 か国中で 1 番低いとされています。そのため、TOEFL は日本国民の弱点を表した試験だと言われるような結果が出ているのです。
8. 日本人は英語を話すことと書くことが苦手な人がとても多く、とても外国の人々と比べられるような現状ではありません。そこで、せめて大学に入る前に読む・書く・話す・聞くの 4 つの技能を身に付けてほしいという理由で、文部科学省は大学入試に TOEFL を導入しようとしているのではないかと思います。
9. 5 年後にはかなり高い確率で導入されるということで、高校の先生方も非常にびっくりして 4 月からの教育内容を変えようとする動きまであります。英語の文章を読んで訳す今までのような学校での英語教育では TOEFL には全く対処できませんので、これは大きな改革になると思います。
10. 私は、この改革に大賛成です。難しい英語の文章を日本語に翻訳することが英語教育だと思っている方々にとっては御迷惑な話かもしれません。しかし、難しい英語の文章を日本語に翻訳するだけで英語を読む力がつくか・英語を書く力がつくか・英語を話す力がつくか・英語を聞く力がつくかという、あまり期待できないのではないのでしょうか。従来型の試験ではよい点数が取れるかもしれないが、読む力・書く力・話す力・聞く力はつかないということはかなり以前から言われています。ですから、文部科学大臣の下村博文先生がなさろうとしている改革は驚くべき改革です。
11. また、理科教育については、博士号の取得者を欧米先進国並みの年間 3 万 5 千人程度に増やすことを大きな目標にしているようです。博士号を取得なさっている方はよく御存知だと思いますが、そのためには、多変量解析といいますか、高校の 3 年間で学ぶ統計・確率・行列などをかなり勉強した上でパソコンのエクセルを完璧に使いこなせなければなりません。加えて、SPSS という非常に難しいソフトも自由自在に使いこなせなければなりません。ですから、これから博士号取得を考えている人は、文科系に進む方も理科系に進む方も高校 3 年生までの数学はすべてきちんとやっておかなければいけないと思います。
12. 前にもお話しましたが、インドでは大学に進学しようとする人は文科系を希望している方も理科系を希望している方も、全員が高校数学の 3 年生までの内容を勉強します。そして、インドの大学入試では英語で出題される非常に難解な問題を 1 問につき 2 時間ぐらいかけてじっくりと英語で証明していきます。このインドの方々に負けないような能力をつけたいという思いから、博士号取得

者を3万5千人程度にするという改革が提案されたのではないかと私は思います。

13. さらに、現行のスーパー・サイエンス・ハイスクールに超がつき、超スーパー・サイエンス・ハイスクールをもっとつくりたいということになりました。それは、理科教育をもっともっと充実させたいという考えからです。また、理科好きの小学生を増やすために、小学校に理科専任の先生をおきたいという案も出ています。現在は理科教育があまりうまくいっていません。教科書に出てくるすべての実験を学校の授業で行っているかという、学校に理科の先生がいなくてなかなかできない状況です。ですから、この提案も驚くようなものです。
14. 文部科学大臣の下村博文先生の依頼を受けた自由民主党の教育再生実行本部は、このように5年後に大学入試を変革させようとしています。今日は、それについてお話をさせていただきました。これらの改革はよいものなのか、それともあまりよいものではないのかについては、今後国民の間で十分に議論していただき、よいものであればみんなで全面的に推進していき、よくないのであれば別なやり方をみんなで考えていければと思います。
15. ちなみに、何週間か前に足利市立山辺小学校と山辺中学校に英語の授業を見学に行きました。栃木県の経済同友会の社会貢献活動推進委員会の視察団として何人かの方々と一緒に伺ったのですが、両校とも素晴らしい英語教育をしていました。山辺中学校では3年生の英語の授業を見学させていただきましたが、すべて英語で行われていました。担当の先生は日本人でしたが、あの先生はどこの国の人だろうかというほど発音が素晴らしく、また、きちんとした英語で話されていました。教え方もピカールでした。生徒さんたちもすべて英語で受け答えをしていました。
16. 足利市立山辺小学校では、4年生の授業を見学させていただきました。ALT (Assistant Language Teacher) の外国の先生も、これまた素晴らしい英語で子どもたちとディスカッションをしたり、いろいろな英語の表現が使えるような指導をしたりしていました。
17. 足利市の小・中学校では、このような素晴らしい教育が行われています。栃木県内の他の小・中学校でも行っているところがたくさんあると思いますので、ぜひこれらをみんなで応援して、栃木県の英語教育を素晴らしいものにしていきたいと思います。また、大学入試に TOEFL が導入されても大丈夫なように今から準備をしていくと、英語が不得意な日本人はいなくなるのではないかと思います。

皆様にもこの問題についてお考えいただければと思います。

— 2013年7月4日加筆・訂正、林明夫 —